



国立大学法人

東京学芸大学

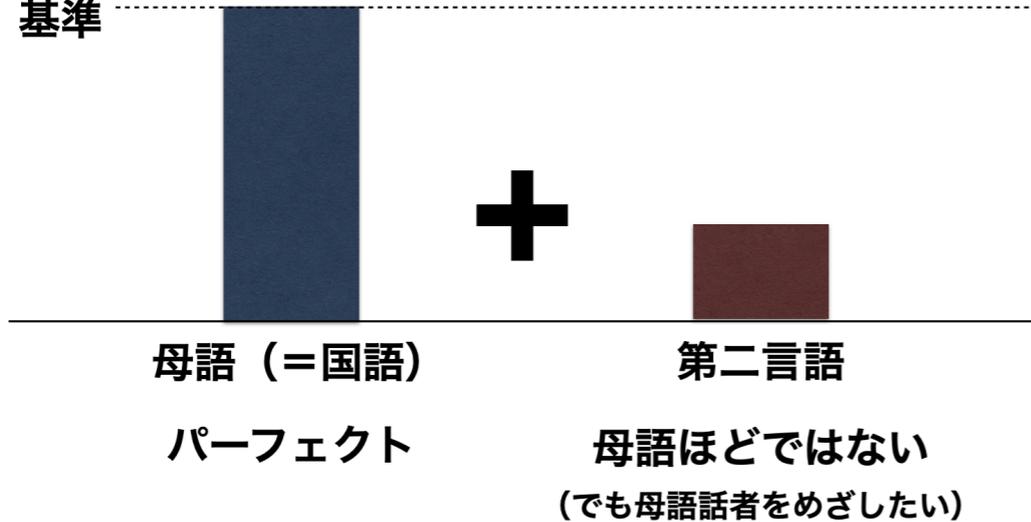
# 日本語政策論

第13回 第3单元「複数性」から日本語教育の論点争点を考える4  
「能力としての複言語主義，価値としての複言語主義」

16:10からはじめますね！

「mono」という考え方  
私たちは「単一」の言語体系であるべきだ！

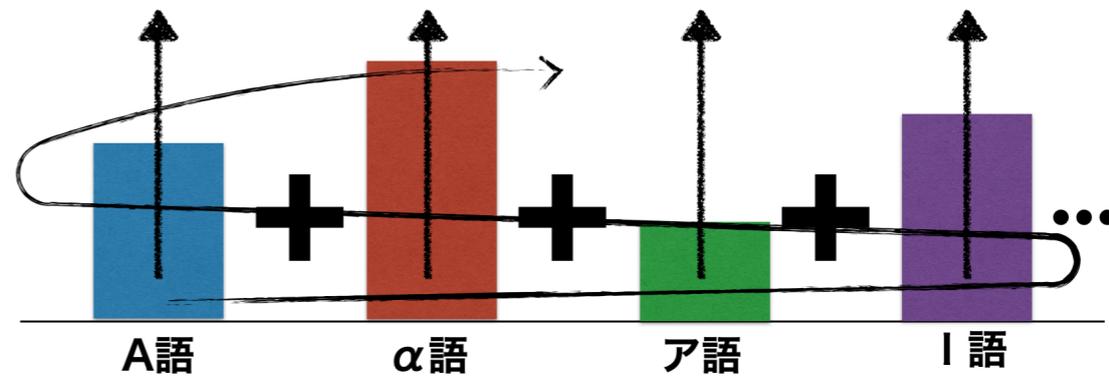
基準



私たちの中には「基準語」という確固たる能力がある (もつべき)。  
「基準語」を往々にして「母語」という。  
それに「+α」で「第二の言語」「サブの言語」がある (もつと良い)

「Plural」という考え方  
私たちの中にある「複数」の言語体系を積極的に持とうとするべきだ！

= 複言語主義



私たちの中にはいつも複数の言語を持てる可能性がある。  
「言語の能力」に100%はなく、どの言葉もさらに成長可能性がある。  
それぞれの言語体系は、時に「母語」でもあるし、「母国語」かもしれないし。「外国語」かもしれない。  
ただし、「母語」は「絶対言語」ではない。

### 概念 「能力」としての複言語主義

視点① 私たちはそれぞれ、複数の言語を持ち、しかも複数の言語は互いに関連しあって補完的に存在していること。

偏 + 変 + 連

視点② 「理想的な母語話者 (ネイティブ)」を育てるのではない！ 大切なのは、「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること。

「ネイティブ」は神話だ！

視点③ 複言語であると同時に「複文化」。

自分の中の複数の「所属」「居場所」「アイデンティティ」の存在を認め、それを深められること。

ふりかえり

### 「複言語主義」的な発想は「難しい」？

- ①政策の観点から  
日本語教育は今どうなってる？
- ②言語教育実践の観点から  
複言語主義的な実践ってどんな発想？
- ③世の中の価値観の観点から

か×かではなく  
冷静に分析的に

何はできていて、何は課題なのか  
課題を解決することはどうしたらいいか？

# 「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること

「日本語能力試験」 (2010年までのもの)

「ヨーロッパ言語共通参照枠」 (2000年代から欧州評議会で発表)

**1級** 高度の文法・漢字 (2,000字程度) ・ 語彙 (10,000語程度) を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力 (日本語を900時間程度学習したレベル)

**2級** やや高度の文法・漢字 (1,000字程度) ・ 語彙 (6,000語程度) を習得し、一般的なことがらについて、会話ができ、読み書きできる能力 (日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)

**3級** 基本的な文法・漢字 (300字程度) ・ 語彙 (1500語程度) を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力 (日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)

**4級** 初歩的な文法・漢字 (100字程度) ・ 語彙 (800語程度) を習得し、簡単な会話ができて、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力 (日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)

レベル群名	レベル	説明
C 熟達した言語使用者	C2	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる</li> <li>いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。</li> <li>自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる</li> </ul>
	C1	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。</li> <li>言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉いができる。</li> <li>複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。</li> <li>その際、文を構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがう</li> </ul>
B 自立した言語使用者	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。</li> <li>お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。</li> <li>かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選</li> </ul>
	B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</li> <li>その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。</li> <li>身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。</li> <li>経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べること</li> </ul>
A 基礎段階の言語使用者	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</li> <li>簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。</li> <li>自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明</li> </ul>
	A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</li> <li>自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。</li> <li>もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる</li> </ul>

「どんな言語知識をもっているか？」基準

「言語を使用して何ができるか？」基準  
(行動目標基準 (Can do statements))

# ①政策の観点から

## 日本語教育は今どうなってる？

### 「日本語能力試験」の中の「言語能力観」はどう変わった？

旧試験 2010年まで

級	認定基準
1	高度の文法・漢字(2,000字程度)・語彙(10,000語程度)を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)
2	やや高度の文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、一般的なことからについて、会話ができ、読み書きできる能力(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)

新試験 2010年から

レベル	認定の目安 各レベルの認定の目安を【読む】【聞く】という言語行動で表します。 それぞれのレベルには、これらの言語行動を実現するための言語知識が必要です。
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる <b>読む</b> ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 <b>聞く</b> ・幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる <b>読む</b> ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 <b>聞く</b> ・日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。

N3【新設】 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる

- 読む** ・日常的话题について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。  
・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。  
・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。
- 聞く** ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物

**観点②の「ネイティブをめざす」ではなく「社会に行動できる自立した言語使用者」になることは反映している**

3	基本的な文法・漢字(300字程度)・語彙(1500語程度)を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力(日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)
4	初歩的な文法・漢字(100字程度)・語彙(800語程度)を習得し、簡単な会話ができ、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力(日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)

N4	基本的な日本語を理解することができる <b>読む</b> ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。 <b>聞く</b> ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる <b>読む</b> ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。 <b>聞く</b> ・教室や、身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。

やさしく

やさしく

## ②言語教育実践の観点から 複言語主義的な実践ってどんな発想?

### 実践A 国語教科書「修飾語を使って書こう」を用いた実践

日本語取り出し教室での実践（日本語・英語，日本語・広東語話者の小学校3年生）

「修飾語の役割」について学ぶ学習を，日本語だけではなく，それぞれの子どもたちが持っている「2つめの言語」でも行い，互いにわからない言語を翻訳機で訳しながら言語の仕組みを学ぶ。

### 実践B 「社会参加としての翻訳」

スペインの大学生たち A2（初級後半くらい）レベル

「スペイン人の心に響くような翻訳をしてほしい」という東日本大震災の「復興の狼煙」のスペインでの企画展示展の写真の日本語キャプションに，「心に響く」スペイン語翻訳をつける実践

②言語教育実践の観点から  
複言語主義的な実践ってどんな発想?

A) グループの中で「A担当」「B担当」の2つに分け、それぞれ日本語教育実践を読む

B) それぞれの実践を解説できるようにメモにまとめる

B-1 実践の概要を述べよ

この実践はこういう概要でした

B-2 実践の視点を解説せよ

実践を視点①～③を用いて解説する

B-3 実践の価値を批評せよ

実践の「よさ」「私だったらもっとこういうのも入れてみたい」を述べる

視点① 私たちはそれぞれ、複数の言語を持ち、しかも複数の言語は互いに関連しあって補完的に存在していること。

視点② 「理想的な母語話者（ネイティブ）」を育てるのではない！ 大切なのは、「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること。

視点③ 複言語であると同時に「複文化」。自分の中の複数の「所属」

C) グループでお互いに解説しあう。(15分)

(2人いる場合は、「解説者」「補足者」に分かれ、補完しあうようにする)

## 実践A 国語教科書「修飾語を使って書こう」を用いた実践

日本語取り出し教室での実践（日本語・英語，日本語・広東語話者の小学校3年生）

「修飾語の役割」について学ぶ学習を，日本語だけではなく，それぞれの子どもたちが持っている「2つめの言語」でも行い，互いにわからない言語を翻訳機で訳しながら言語の仕組みを学ぶ。

複数の言葉の  
**関係性**に視点を置き  
「偏りのある言語力」  
を駆使しながら  
**意味のある言語**  
を生み出す

### 視点①

複数の言語を  
関係づけながら学ぶ

自分の持っている  
**言語の力を総動員**して  
**「私」の話**をする  
社会に行動できる  
自立した言語話者へ

### 視点②

「社会の中で行動する人」  
としての言語の成長を捉える

自分の中にある  
複言語的な**文化資本**  
や**社会関係資本**  
の存在に気づく

### 視点③

複数の居場所，アイデン  
ティティを深める

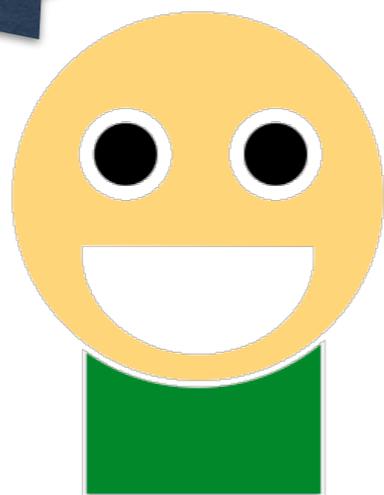
## 実践B 「社会参加としての翻訳」

スペインの大学生たち A2（初級後半くらい）レベル

「スペイン人の心に響くような翻訳をしてほしい」という東日本大震災の「復興の狼煙」のスペインでの企画展示展の写真の日本語キャプションに，「心に響く」スペイン語翻訳をつける実践

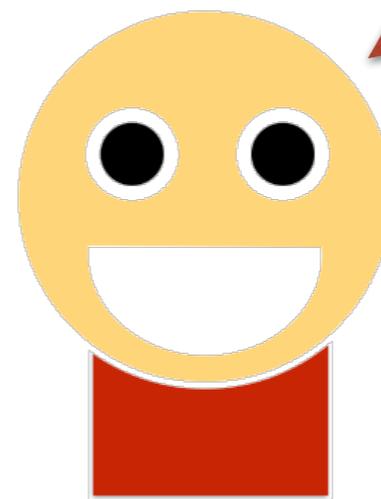
「複言語の能力」感覚を個々人が持てるようになるためには  
個人の力じゃ無理。では何が必要か？

私は外国語、まあ  
知ってるけど  
複言語話者ではない  
よね



**単一言語主義の社会**

私は〇〇語、ちょっ  
としか使えない。け  
ど、私も複言語話者  
だよ



**複言語主義の社会**

## 概念2

# 「価値」としての複言語主義

人間の中にある「複言語の能力」「その可能性」を、「私たちの社会」が価値として認めていけないとダメ。

社会全体を教育していくことの重要性

「外国人のための日本語教育」だけではなく、例えば、学校教育全体でも、国語科教育でも。

# 論点争点として捉え、来週のまとめにつなげる

## 日本語教育を考える上での論点争点①

### 共同体の成員条件の緩和問題

共同体の成員として、外国から来た人を「同じ〇〇人」と認めていくことは可能か？

## 日本語教育を考える上での論点争点②

### 共同体の共通語としての日本語 規範の緩和問題

共同体の成員条件としての「日本語ができること」は言語的厳密性か共同体的実用性か？  
日本語母語話者は「共同体の用いる日本語の規範」を緩和できるか？ 寛容になれるか？

## 日本語教育を考える上での論点争点③

### 日本語教育を「語学モデル」から 「教育モデル」として組み立て直す問題

日本語の教え手はどのような立ち位置で、どのような形で、どのような言語教育をめざす必要があるのだろうか？

## 論点争点をどう考えるか？

ここは「複言語主義」的発想は一つの解決の視点。

でもそのためには「価値としての複言語主義」を社会が理解していくことが重要になる。

それはどうしたら可能か？

教育に何ができるか？

不可能であれば、どのような方法が解決を導くか？

複言語主義的な実践は現実的に生まれている

## 歴史からの接近：「近代」の限界と継続

「1つである，1つになる」ことの限界と継続

近代日本では「いかに1つになるか」だった。

それは日本の中の「中央—地方」の方言問題，内地と植民地の権力問題や同化主義政策にも。

ただ，戦後も持続してその発想はあったかもしれない。私たちの中にはこの発想は継続的に存在しているのかもしれない。

## 海外からの接近：「複言語主義」の挑戦と課題

「複数である，複数になる」ことの挑戦と課題

現代のグローバルな社会では私たちは「国境」を越えて多くの人が移動する。その中で「1つ」ではなく「複数」であることを認め，それを成長させていく発想がヨーロッパを中心に生まれてきている。

実際，「能力としての複言語主義」は世界的にも浸透している。

# 例えば、「国語教育」でどんな取り組みができるか？

「日本語政策論」（2016-2017）で行った「〈国〉語を超える国語授業づくり」活動

## 「国」語を乗り越えるための アプローチ

### ① 「国」の中の多様性を捉える

「国」の中を「同質」と見るのではなく、その中の「多様性」を見るためのことばの力

地方のローカルCMの中での

### ② 「国」の枠を批判的・創造的に捉える

現状の「国」枠で考えられている「システム」や「伝統」や「文化」をそのまま受け入れず、「もっといいもの」を作っていくための、批判的・創造的なことばの力

日本語母語話者ではない著者の『千々にくだけ

ユニバーサルピクトグラム

### ③ 「国」と「国」を比較・交差して関連づける 複言語主義的視点

自国語と外国語の言語の関連性・関係性を学び  
複数の言語を関係させられることばの力

「パクチーを振りかける」外国語の慣用句の